



新学期が始まり早2ヶ月、新緑が美しい季節となりました。中学生・高校生になった皆さん、また新しい学年を迎えた皆さん、新たな学校生活は充実しているでしょうか。高校1年生の授業では、この時期に考えたい「将来に向けての生活設計」を学びました。今回はお金の専門家である講師の高木先生が講義をしてくださいました。



特定非営利活動法人（NPO法人）・投資と学習を普及・推進する会
証券カウンセラー 高木 典子先生

～将来に向けて考える「働く意義と職業選択」～

まっすぐにあがった手の意味は？答えは、高木先生から皆さんへの最初の質問「自分のことを子どもだと思っている人」。手をあげている人は自分がまだ「子ども」であると答えた人です。高校1年生12クラス中のほとんどの生徒が自分の事を「大人」ではなく「子ども」だと思っていることがわかりました。この授業では「大人とは」また「自立とは」について学びました。自立するためには「働く＝仕事」が重要です。なぜ働くのか、どのように働くのかについても考えました。

1、「大人」になるとはどういうこと？

- ・実年齢（酒・たばこ・選挙権・結婚が可能になる等）
- ・精神年齢
- ・身体的年齢
- ・社会人になる（働くようになったら）

など、他にもいろいろ意見がでました。



「自立」にむけて考える

「大人」となるということは、年齢的・身体的な成長だけでなく、色々な選択を自分でできるようになるということでもあります。自分を高め自分らしく生きていきたいという自己実現の為、高校時代は自立した生活を営めるようになるために様々な能力を身につけたい時期でもあります。では「自立」とはどういうことなのか、以下にまとめてみました。

2、「自立する」とはどういうこと？

<4つの自立>

- ①「生活的自立」②「経済的自立」
- ③「精神的自立」④「性的自立」

自分のことは自分で決める、衣食住に対して自分のことは自分でする、適切な対人関係を形成する能力を身につける、社会生活に対応する、他人を尊重する、お金を計画的に使うなどが「自立」ということの例です。皆さんはどこまで「自立」できていますか？

私達と社会との関わり



様々な働き方と働くことの意義

経済的に自立するためには「働く＝仕事」が重要になってきます。現在は多種多様な仕事があり、また雇用形態も様々です。仕事と生活の調和を考える時、自分の意思が重要になってきます。また、自己実現だけをめざすのではなく、社会の中での自身の役割や働くことの意義を幅広く考える必要があります。この機会に将来どのように生きていきたいのかをじっくりと考えてみましょう。



編集後記

「自立」という言葉には「そのもの自体で直立すること、別のものでも支えてないこと」などという意味もあります。皆さんが生まれて初めて自分の足で立ちあがった瞬間「自立」が始まったといえるのではないのでしょうか。そのように目に見える「自立」もあれば見えない「自立」もあります。これからどんな大人になりたいかという目標をたて、その自己実現の達成をめざしながら、自分の個性や能力を見きわめていくことが大切です。また「自立」には責任も伴います。自分の意思決定に責任を持ち、なりたい自分、かなえたい夢や目標に向かって進むことで「自立」してゆくのではないのでしょうか。

